

# 求職者への好材料に

気になる

話題

特積みの週休2日

毎週2日間を休みとする「週休2日制」。特積み業界の場合、配達時間やエリアの調整などを通じて導入できた企業では人材採用の好材料となっており、ドライバーからの評判も上々だ。一方、導入が難しいと考える企業からは、ドライバーの補充や同業他社との業務連携が必要という声も出ている。表。

全拠点の従業員を対象に週休2日を実施しているのは第一貨物。一般に土曜日の物量は平日よりも大幅に減少する。同社

## 要員補充で悩む声も

週休2日導入が難しいとする企業の声

- ドライバーが休めるために、運行では1.2倍の人員を確保しなければならない
- 人員、原資共に不足している
- 休みが増加すれば仕事が回らない
- 同業他社との連携による共同配送が必要

は人員を絞りつつ、配達時間を午後に入らずといった調整を顧客との間で行うなどして、各ドライバーが平日よりも広いエリアで午前、午後配達する体制を整えた。集配では土日を軸にシフトによって平日を含む2日、運行便では週末を基本に2日休む。人材採用では、同業他社に比べて休

日が多いことが求職者に代行する。ドライバーの対するPR材料の一つに補充が最大の課題。現在の1・2倍は少なくとも必要になる」とした。中には労働時間削減と若年層獲得のために週休2日制を推進している会社も。コロナ禍の影響があるものの、可能な範囲で取り組みを継続しており、若手も採用できるようになってきている。

他に労働時間削減と若年層獲得のために週休2日制を推進している会社も。コロナ禍の影響があるものの、可能な範囲で取り組みを継続しており、若手も採用できるようになってきている。

土曜の集荷を削減することで、週休2日の取り組むを実施中の会社もあり、家族と過ごしたり、土曜開催の行事に参加できたりと私生活が一層充実し、ドライバーからは好評だ。

一方で、実現に悩む企業もある。集配では隔週で週2日休みを取得できているが、運行では高いハードルがあると考える中堅特積みは「業務を

若年層の採用やドライバーの働き方改革にもつながる週休2日。取り組みがさらに広がるか注目

（熊田 安那）

同業他社との連携重要

週休2日実現には、同業との連携も重要になり

そうだ。もし自社が休日でも、他社が荷物を土曜に持ち込めば運ばざるを得ない。連携により物量が多い日に荷物をまとめ

て共同配送できれば「空いた時間を休みに回せる（近物レックス）。

（熊田 安那）